

目指す学校像	地域の学校として学校・家庭・地域が連携・協働し、社会に貢献できる人材を育む学校
--------	---

重点目標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための授業づくり 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制の充実と教育環境の整備 3 学校運営協議会を核とした地域、保護者の願いが叶う教育の実現 4 全国教員研修プラットフォーム Plant を活用した教職員研修の充実	※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
------	---	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	〈現状〉 ○全国及び市独自の学力・学習状況調査では、多くの教科で市平均をやや下回っており、特に概念的な理解しや定着についての理解度が乏しい。 〈課題〉 ○教員による説明や教科書の言葉をなぞるなど、表面的な指導で終わってしまうケースが見られた。 ○知識・技能が不十分であるため、思考が深まらず、できる生徒中心で議論が進んでしまうことがある。また、記述での無回答率がやや高い。 ○授業ごとに行う Y (やったこと) W (わかったこと) T (次になること) による授業の振り返りを先送りしたり、事後にまとめて書かせたりするなど、時間確保が不十分なケースが見られた。	・デジタルドリルや学習ツールを活用した家庭学習による個別最適な学びの充実 ・生徒の主体的な学びを実現させるための手立て及び教職員の指導力向上	①授業の説明の他にも、全校でスタディサプリに取り組み時間の設定(朝学習:年15回)や、宿題配信など、基礎定着のための機会を確保する。 ②授業における YWT の振り返り、家庭学習の状況を記録するグロウログノートを活用した家庭学習の充実を図る。	①学校自己評価、生徒対象「1日の平均的な学習時間」の1時間以上の割合の向上。(R5:52.0%→R6:60%) ②市独自の学力・学習状況調査生活質問紙「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につながる事ができていますか。」の肯定的な回答の割合を市平均以上とする。(R5:85.9%)	①学校自己評価、生徒対象「1日の平均的な学習時間」の1時間以上の割合は、49%と前年度及び目標を達成できなかった。 ②市独自の学力・学習状況調査生活質問紙「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につながる事ができていますか。」の肯定的な回答の割合は、85.9%と前年と同じ結果となった。	B	・スタディサプリの活用は、確実に増加しているが、継続的な家庭学習の時間の増加につなげることが出来なかった。 ・引き続き YWT による振り返りの充実を図りながら、主体的に家庭学習に取り組める手立てを次年度研究していきたい。	・一日の平均的な学習時間について1時間以上の割合を増やすことは、生徒の実際の生活から考えると厳しいのではないかと感じる。習い事等を考え、1週間の中でといった長い単位で調査してはどうか。 ・生徒が主体的に学校行事に取り組むことが増えているように感じる。「やってあげ過ぎない」ことの大切さもある。	
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査質問紙「学校に行くのは楽しいと思う」「友人関係に満足している」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく上回っている。 ○昨年度、保健室の外科的来室は507件発生し、前年同様であったが、内科的来室は615件と前年度比124%と増加している。 〈課題〉 ○多様な生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○本年度は体育館空調工事等、長期間に渡る工事も予定されていることから、瑕疵による事故が発生しないよう、業者との連携を適切に実施する。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安心・安全で美しく整えられた教育環境づくり	①週1回の生徒指導部会、教育相談部会において、生徒の最新情報を随時共有し、迅速且つ組織的な対応を行う。 ②新規の取組となるスクールダッシュボード、SoLaの一むの運用方法の検討を重ね、安定運用に向けた体制を整えるとともに、生徒指導、教育相談の充実を図る。	①学校自己評価・保護者対象「学校は、悩みごとに対して、相談できる体制を整えている」への肯定的な回答の割合の向上。(R5:82.4%→R6:85%) ②市学習状況調査「困ったり、悩んだりしたときには、だれかに相談しようと思えますか」への肯定的な回答の割合を昨年度以上とする。(R5:81.5%)	①学校自己評価・保護者対象「学校は、悩みごとに対して、相談できる体制を整えている」への肯定的な回答の割合は、80.8%と前年度及び目標を達成できなかった。 ②市学習状況調査「困ったり、悩んだりしたときには、だれかに相談しようと思えますか」への肯定的な回答の割合は、81.4%と前年度を0.01下回ったが市平均は上回った。	B	・3学年が73%と学校の相談体制についての課題が見られた。進路指導、生徒間トラブル等、最終学年だからこそその充実を図る必要がある。 ・スクールダッシュボードについては、時間や環境の制限により習慣化させることはできなかった。見取りも含めて改善を図っていく。		・悩み事に対して、最初の窓口としての担任の役割が機能していると感じており、保護者の安心感が高いことも頷ける。 ・保護者の悩み事に対する相談体制については、そもそも相談が必要な場面がなかったとも考えられるのではないかと感じる。学校評価における学年間の格差についても検討を行い、学年に応じた手立てを講じることも必要なのではないか。
3	〈現状〉 ○コミュニティ・スクール3年目を迎えるが、昨年度の保護者を対象とした学校自己評価アンケートでは、学校と地域、保護者との連携が十分でないとの回答が増えた。 ○これまでほぼ全ての家庭が、PTAへの加入及びPTA役員に協力いただいたが、本年度の新入生はPTA加入が約9割、PTA役員への協力は半数以下となっている。 〈課題〉 ○学校運営協議会を核とし、地域、保護者の皆さんの思いや願いを受け止め、学校教育活動との連携強化が求められる。 ○PTAについても学校を支える上で、大きな役割を果たしており、学校運営協議会においても熟議が必要である。	・コミュニティ・スクールを発信源とした地域に根ざした信頼される学校の実現 ・保護者に理解され協力が得られるPTA改革の実現	①西原小学校と合同で実施している学校運営協議会の実施方法を一部各校開催とすることで熟議の時間を充実させ、地域、保護者の願いの実現を図る。 ②学校運営協議会委員の構成を見直し、地域の核となる人材や学識経験者を新たに加えるとともに、グループワークなどにより熟議を活性化させる。	①学校自己評価、保護者対象「学校は保護者や地域の人々との連携を図って教育活動を進めている」の肯定的な割合の向上。(R5:78.4%→R6:80%)	①学校自己評価、保護者対象「学校は保護者や地域の人々との連携を図って教育活動を進めている」の肯定的な割合は、80.2%と目標を達成することができた。	A	・一部各校開催により学校運営協議会における熟議の充実を図ることができた。 ・引き続き地域との関わりを創出するための取組について熟議を深めていきたい。		
4	〈現状〉 ○一人一台端末が整備され3年目を迎え、ICTの活用については、日常化されつつある。 ○研修への取組については、週1回の研究部会を核とし確実に研究成果を積み上げている。 〈課題〉 ○昨年度は、退職する教職員も発生しており、教職員の勤務状況の把握と、状況に応じた適切なフォローが必要である。	・信頼される教職員の育成と働き方改革の推進	①全国教員研修プラットフォームPlantの周知及び当初面談実施時における研修受講奨励を行うとともに、適宜Plant等の研修紹介を行うことで教職員の指導力向上を図る。 ②ICT等の活用により、業務の効率化を図り、時間外労働時間の削減を図る。	①学校自己評価・教職員対象「研修課題に主体的に取り組み、研究に取り組めているか」のAの割合の向上。(R5:31.8%→40%) ②独自アンケート・教職員対象「ワークライフバランスを意識した働き方をしている」の肯定的な回答の割合の向上。(R5:72.2%→R6:80%)	①学校自己評価・教職員対象「研修課題に主体的に取り組み、研究に取り組めているか」のAの割合は、35%と前年度を上回ったが、目標には達しなかった。 ②独自アンケート・教職員対象「ワークライフバランスを意識した働き方をしている」の肯定的な回答の割合は、82%と前年度を大きく上回り目標を達成した。	A	・教職員の研修に取り組む姿勢は確実に向上している。Plantのさらなる活用に向け、個々に応じた研修が受講できるような仕組みを考えていきたい。 ・時間外労働時間の削減は、一人当たり月平均がR5:約48時間からR6:約30時間に大幅に削減できた。今後は「やりがい」について考えたい。		・以前は夜の8時でも9時でも校舎に電気がついていたり、最近は消えていることが多く、働き方改革が進んでいることが分かる。 ・生徒や教職員の余裕を生み出すという点で、カリキュラムマネジメントは大切である。

学校運営協議会による評価
 実施日令和7年2月10日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等

